

子供の貧困について考える



12月18日(日)から19日(月)にかけて静岡県熱海市において自治労現業評議会主催による「2017年度第2回全国幹事会・学習会」が開催されました。この会は8月の第1回全国幹事会以降の活動報告、特に9月から12月に行われた省庁交渉についての報告をいち早く全国へ発信するために行われています。そのために傍聴参加が認められ、学習会も開催されます。

—2018からの現業・公企統一闘争の考え方(本部案)—
4月に人員確保や賃金・労働条件の改善に向けた要求、

さらには、政策実現に向けた要求書を提出します。この要求に対する第1次交渉を各自治体が次年度予算を編成する前段の5月とし、第2次の交渉を、10月の第1次交渉の継続課題について交渉し、課題解決に向け取り組むこととします。年2回の交渉設定で単組の状況を踏まえヤマ場設定することとします。また、現在本部が9月に行っている総務省交渉および議員要請行動を骨太方針を見据え4月に行い、要請内容もより県本部・単組が統一闘争を取り組みやすい環境を整えていきます。さらには現在取り組んでいる「公共サービスを考える集会」を「質の高い公共サービスの確立に向けた集会」になるよう計画改善を検討しています。

学習会

—講演：子どもの貧困と地域社会—

跡見学園女子大学の鷹(が)ん咲子先生の講演学習会がありました。学校給食費未納家庭の多くは、家庭に何らかの問題を抱えていることが明らかになってきており、年代が上がってくる中学校の方が未納率が高いそうです。生活が困窮していれば就学援助も受けられるのに孤立家庭の故、制度を知らない保護者も見受けられるそうです。千葉県で起きた悲惨な事件(給食のパート職員が県営住宅の立ち退きを迫られ、中学生の娘と無理心中をはかった事件)から、官製ワーキングプア・自治体の対応・生活保護申請の厳格化など、様々な問題が見えてきます。子供の貧困と給食費未納の問題について、考えさせられる講演でした。『国では「子どもの貧困対策に関する基本的指針」を打ち出しておりますが、具体的なアウトリーチ(手を差し伸べる)ことが大事で私たち自治体職員の存在が最も大事である。』と話されました。深刻な子どもたちの状況に胸が痛くなりました。終了後はこの講演をテーマにグループ討論が開かれ、活発な学習会になりました。

